



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

四旬節第4主日 C年 (2022年3月27日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：ヨシュア記 5章9a、10—12節

第二朗読：コリントの信徒への手紙二 5章17—21節

福音朗読：ルカによる福音書 15章1—3、11—32節

父は生かす神

第一朗読：「^{すぎこしさい}過越祭を祝った」^{たみ}民はいのちをくださる神との関わり合いなかで、神と共に^{あら}新たに生きていく。

第二朗読：「^{むす}キリストと結ばれる人」は新しく^{そうぞう}創造された人。人に新しいいのちを与えるために^{あた}キリストは十字架にかけられた。

福音朗読：「この子は死んでいたのに^{よろこ}生き返り」と父はわたしたちが生きるのを喜ぶ

説教

有名な「^{ほうとうむすこ}放蕩息子のたとえ」が今日の福音朗読です。もう一度、ゆっくり読んでみると、あることに気がつきました。ここに^{とうじょう}登場するお父さんと息子(弟)、息子(兄)の家族は、^{はたん}ほぼ人間関係が破綻しているようなのです。

「お父さん、わたしが^{いただ}頂くことになっている財産の^{わ まえ}分け前をください」(12節)は、いわゆる^{せいぜんぶん}生前分与のことです。しかし、父親が生きている間は^{しよゆうけん}所有権はあっても、分与された財産の^{しよぶんけん}処分権はなかったそうです。しかし、息子(弟)はすぐに金に換えてしまいます。息子(兄)は財産分与に^{こうぎ}抗議して、受け取りを^{きよひ}拒否できました。そうすれば分与は^{な た}成り立ちません。あるいは、息子(弟)と父親との^{ちゆう}仲介役として財産分与をやめさせるために^{どりよく}努力することもできたはずですが、しかし息子(兄)はどちらもしませんでした。それどころか財産を受けとります。このあたりから見えてくるのは父親と息子(兄)の関係、父親と息子(弟)の関係、そして息子同士がうまくいっていない事実です。

息子(弟)は大飢饉で食うや食わずやの生活を強いられます。「もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」(19節)は、回心した息子の発言と理解できるでしょうけど、雇い人は雇い主と一緒に暮らすことはなかったそうです。つまり、父親との生活ではなく、別な家で自立して生きていくと理解できます。この息子(弟)は、財産を無駄づかいしてしまって、何もかも失ってしまったときに「ある人のところに身を寄せ」(15節 「身を寄せる」は、膠を意味するコツラから派生した動詞) たわけですが、それとて人を雇えるほどの金持ちのところにしがみついて生きていこうとしたのです。つまり、あくまでも自分中心なわけです。

それに対して父親は財産をすべて分け与えます。ここでの財産はいのちとか生活を意味するビオスです。つまり、自分のもっているものを与え尽くしたわけです。そして、「息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って」(20節)行きました。父親の方から関係を結ぼうとするのです。そして「雇い人の一人にしてください」という息子(弟)の願いをささぎって、良い服と指輪と履物を与え、喜びの宴会を催します(22-23節参照)。人のよいお父さんです。破綻していた人間関係をもう一度作りなおそうとするのです。

「死んでいたのに生き返り」(24、32節)は父親の心情をよく表すことばですが、今日の三つの朗読を貫くテーマと言えるでしょう。第一朗読では、ヨルダン川を渡り終えて約束の地で新しい生活を始めたイスラエルの民が、過越祭を祝った様子が読まれました。荒れ地での40年に及ぶ生活は終わりました。もはや彼らはエジプトの奴隷でもありませんし、つぶやいてばかりいる奴隷根性にそまった民でもないのです。新しい神の民なのです。そのことをヨシュアは「今日、わたしはあなたたちから、エジプトでの恥辱を取り除いた」(ヨシュ5章9a節)と高らかに宣言します。そして、「カナンの地の収穫物」(12節 フランシスコ会訳)を食べる定住農耕生活が始まります。こうして、古いものは過ぎ去り(過ぎ越し)、新しい生活(いのち)が始まったのです。

第二朗読は「ですから、誰でもキリストと一致しているなら、新しく造られた者です。古いものは過ぎ去り、今は新しいものが到来したのです」(2コリ5章17節 フランシスコ会訳)とパウロは言います。主キリストに結ばれて、キリストと一致して古い人が死に、新しいいのちが始まっていくのです。それは今での生き方とはまったく違う生き方です。

福音朗読で息子(弟)が求めた「財産」はギリシア語でウーシアでした。父親が与える「財産」はビオスです。ビオスには生活、いのちの意味もあります。父親は自分の持ちうるすべてを息子たちに与え尽くしたのです。ですから、死んだのは父親のほうです。しかし、その父親が息子(弟)を生かすために力を尽くします。息子たちが新しく生きるためなら、何をも惜しまない父親なのです。